



「輝け！橘っ子」通信

学校教育目標「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」
めざす学校「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」

いよいよ明後日から冬休みです。全国的にインフルエンザが流行していますが、橘小学校では感染症の流行もなく、何とか皆が元気に冬休みを迎えられそうです。冬休み中も、「早寝・早起き・朝ご飯」と「よい睡眠・しっかり運動」を心がけ、冬休み明けには全員が元気に登校してほしいと思います。ご家庭のご協力、よろしくお願いいたします。

徳島県いじめ防止一斉学習、人権集会を実施しました！

12月17日(水)、橘小学校ではすべての学年でいじめについて考える、いじめ防止学習に取り組みました。昨年度より、徳島県内のすべての公立学校が参加して、「みんなでいじめ問題を考える日『徳島県児童生徒のいじめ防止一斉学習』」に取り組んでいます。橘小学校でも、県教育委員会や文部科学省が作成した動画を視聴し、どうしていじめが起こるのか、いじめをなくすために何ができるのか等について話し合いました。

また、この日に合わせて全校児童が体育館に集まり、人権集会を実施しました。今年度のテーマは「あってもいいちがいが、あってはいけないちがいがいいです」。人権いじめ防止委員会の子どもたちが演じる四つの場面を見て、縦割り班ののびのび班に分かれて話し合いました。ランドセルの色を男女で決めつけること、家事分担の役割を男女で決めつけること、高齢者のバス代が無料または安くなること、遊園地などで車椅子ユーザーが入場優先されること、これらについて「あってもいいちがいのか、あってはいけないちがいのか」、皆が真剣に、悩みながら話し合いました。好きな色は人それぞれ、家事は家族みんなが分担するべきという考えはすぐに皆が一致しましたが、高齢者であってもバス代を払うべきという考えと身体の機能が衰えてきている高齢者に優しい制度はあったほうがいいという考えが拮抗する場面も見られました。今の日本は高齢者や障がいをもつ人々も生き生きと生活してほしいということで、交通機関利用にかかる費用の助成制度や優先席・優先入場といったルールを決めている様々な施設等があります。様々な議論を経て整備されてきた制度やルールですが、誰一人取り残さない、誰もが幸せに暮らすことのできる心豊かな社会をめざす今の日本のありかたについては子どもたちにも理解してほしいと願っています。

橘小学校では、昨年7月に人権・いじめ防止委員会児童を中心に「橘っ子いじめゼロ宣言」を作成し、朝のあいさつ運動や友達にしてもらって嬉しかったことを伝え合う「ありがとうの手紙」の取り組みを続けています。今後もこれらの取り組みを続けるとともに、多様な考え方を交流し合う機会を多く設け、いじめのない、誰もが安心して生活できる学校や社会をつくるために行動できる橘っ子の育成に取り組んでいきます。



人権いじめ防止委員会の人権劇



のびのび班で話し合い。



各班で話し合ったことを発表。



全員で「つばめ」を歌いました。

6年生新日本電工さんの見学

12月17日(水)、6年生の子どもたちが新日本電工徳島工場を見学しました。橘小学校6年生は毎年工場見学をさせていただいています。1925年に創業、今年100周年を迎えた新日本電工さんですが、徳島工場は1968年に設立され今年で57年目だそうです。国内トップクラスの合金鉄工場で、高炭素フェロマンガ、酸化ジルコニウム、酸化ホウ素などを製造されています。当日は、鉱石を運んできた外国船が着く棧橋や、高炭素フェロマンガを製造する過程を見学し、後半は、鉱石標本づくりに取り組みました。自動車・船・鉄道・建物などの鉄鋼製品に欠かせない合金鉄の国内トップメーカーの工場が橘町にあること、工場では安全第一にたくさんの人が働いていることなどを知り、子どもたちにとって大変有意義な見学となりました。ありがとうございました。



工場内で製品の製造過程を見学。



鉱石標本作りに夢中の6年生。

4年生 昭和南海地震について学ぶ

12月19日(金)、4年生の子どもたちが、自主防災会の山〇さんと鵜地区にお住まいの児〇さんを講師にお迎えし、昭和南海地震について勉強しました。1946年12月21日午前4時19分、和歌山県潮岬中を震源とするマグニチュード8の大地震が発生し、橘町には津波が何度も押し寄せ、大きな被害が発生しました。鵜地区では、多くの家や田んぼが津波に襲われ、地盤沈下が起こったそうです。

小学1年生だった児〇さんは、「寝ているとドーンと大きな音がして跳ね起きた。大きな揺れで立ってられず、母親の膝にしがみついていた。」「家族みんなで真っ暗な外を、高台まで必死に歩いて逃げた。父や祖父は農家にとって一番大事な牛を引っ張り、母や姉は鍋釜や着物などを運んだ」と緊迫感溢れる当時の様子を語ってくださいました。

昭和南海地震からすでに79年が経っていますが、今後30年間には必ず南海トラフ巨大地震が起こると言われています。子どもたちには、自分の命を守り、早く高台に避難できるように、家族と一緒に避難経路の確認や家の中の安全な場所確保などに取り組んでほしいと願っています。



昭和南海地震について山〇さんから説明を聞く。



児〇さんから地震発生時の様子について話を聞く。



避難後の生活について質問する子どもたち。